

昔は反抗期といえば中学生くらいが山場で、大学生になる頃には落ち着いているのが相場でした。しかし最近はお子と親の境界線があいまいになって、はっきりした反抗期がなかった人もけっこういるでしょう。それで家族が平和なのはいいのですが、親からの自立という点ではかえって難しい面も出てきているのかもしれない。今の大学生の親からの自立について考えてみましょう。

### あえて反抗しなくてもよくなった

以前は、中学生くらいになるまでほとんど親の考えしか見聞きしないのがふつうでした。だから、中学校で初めて出会う考えや人に新鮮さや憧れを感じ、親を疑うことができました。それが自分の考えを持つきっかけでもあったわけです。

今はネットやSNSが発達し、小さい頃から親以外の考えや親の知らないものに触れる機会がいくらでもあります。まるで、自分はすでに多様な価値観を身につけていると思わせてくれるようです。親の方でも、子どもの方が詳しいことがたくさんあって、親として教えてやれることがあるという自信を持ちにくいかもしれません。

こうして、子どもたちはあえて親に反抗しなくても、親から自由であるように思っていて育てられるのが現代の特徴かもしれません。



### でも本当に自由だろうか・・・

さてそれで本当に自由ならばいいのですが、実際はどうでしょう。高校までは、あらかじめ答えが決まっている課題がほとんどだったと思います。それが大学に入ると、自分の考えを述べる課題が増えたと思います。

ここで、本当に自分の考えを述べられるでしょうか。ついネットで答えを探したりしていないでしょうか。友達が何を書いているか、先生が何を求めているか、気にしたりしていないでしょうか。

つまり、あらためて本当に自分が自由にものを考えられる人なのかどうか問われていると言ってもいいでしょう。今の学生にとっては、大学での学びが、自立を考え直す一つのきっかけとなっているのかもしれない。

